



孤独・孤立に関するフォーラム「女性」

孤立した妊婦からのSOS

～妊娠葛藤相談窓口 にんしんSOS東京の現場から～

特定非営利活動法人ピッコラーレ
代表理事 助産師 中島かおり

子どもの虐待死事例で最も多いのは、 生まれたその日に亡くなってしまいう赤ちゃん

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について（第15次報告）
→ 母子健康手帳未交付13人（92.9%）・妊婦健診未受診12人（85.7%）
→ 医療機関での出産（0%）、自宅のトイレでの出産（38.2%）
実父の存在が確認できない（年齢不明など）（70.9%）

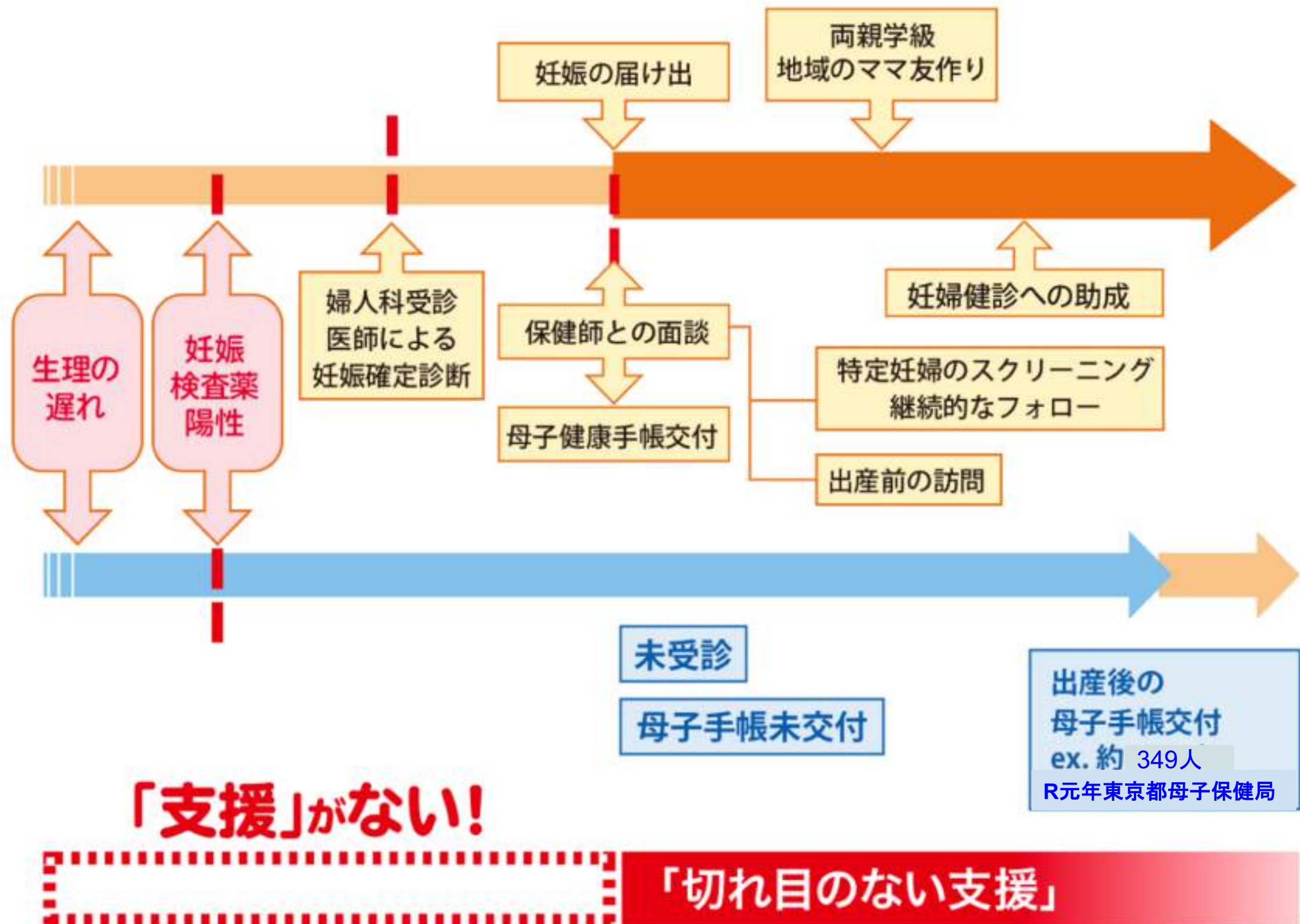


死亡時点の子どもの年齢

子ども虐待による死亡事例等の検証結果等について
（第15次報告）



虐待予防のための切れ目のない支援だけど・・・



虐待対応件数は増えているのに、児童虐待死は減っていない。
また、0日・0か月児が最も多い状況がずっと続いている。

報告書ではその対策について、
「子ども虐待の予防の観点から「望まない妊娠」についての考察を行い、
必要な支援や効果的な援助についての検討を行うこととする」
というような表記にとどまっていて、
0日・0か月児の虐待死をなくすための具体的な対策はまだこれから。

困難を抱える若年相談者の背景

彼女たちは、妊娠するずっとまえから、
いくつもの困難をかかえていました。

貧困



虐待・ネグレクト

家に居場所がない

いつだってひとりだった



安心できる居場所はどこにもなかった

だれにも気づかれず、だれかにSOSを出しても受けとめられず、
やがて、SOSを出すことをあきらめ、ひたすら、ひとりでなんとか生きのびてきました。

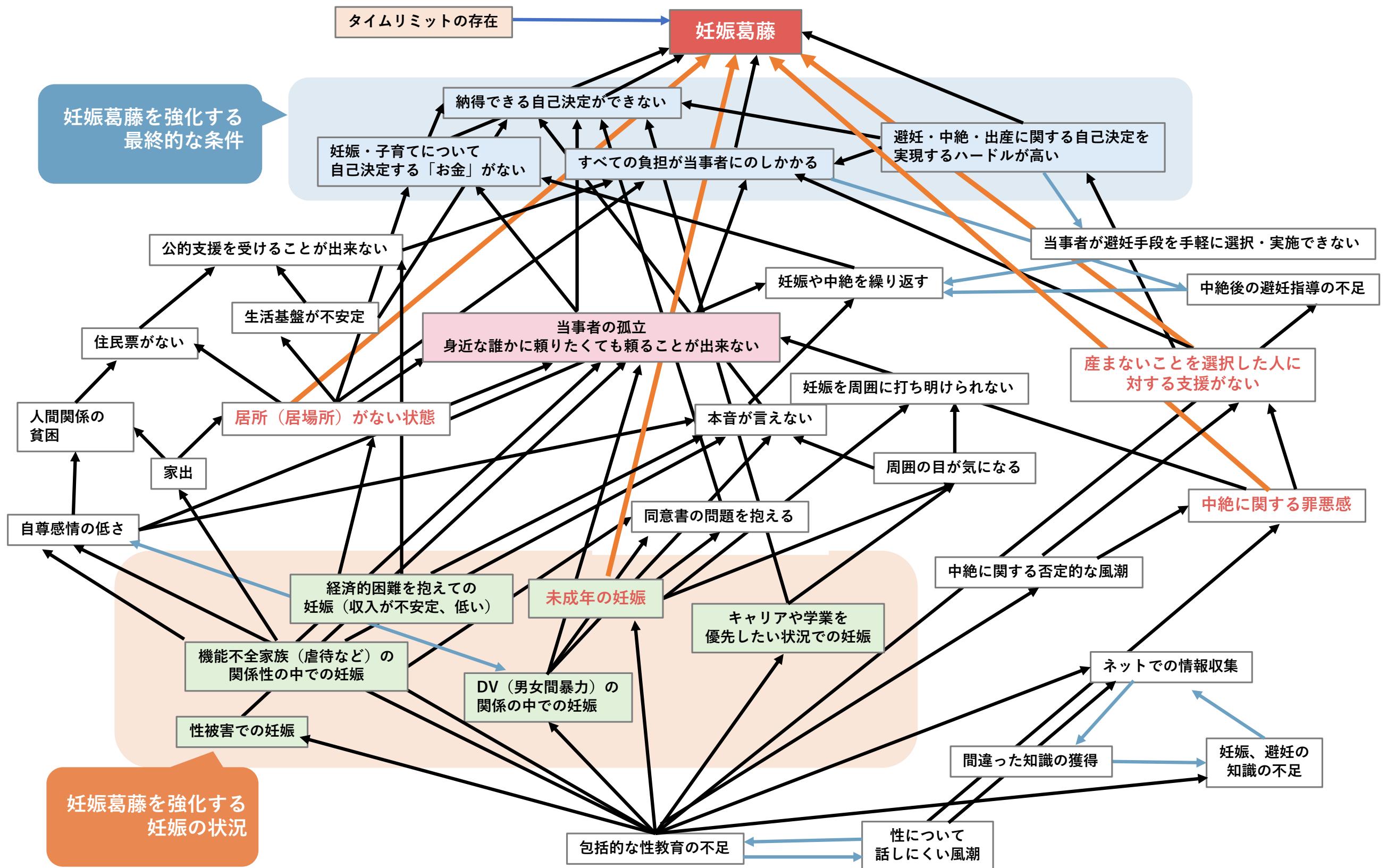
「私って、透明人間みたいだね。」

ピッコラーレの相談窓口に寄せられた相談を分析し、
妊娠葛藤がうまれる社会背景、特に若年妊娠について、
社会課題として可視化する。

[妊娠葛藤白書 にんしんSOS東京の現場から 2015-2019]



妊娠葛藤を強化する要因



妊娠葛藤を強化する要因

- (1) 妊娠子育てについて自己決定する「お金」がない・全ての負担が当事者にのしかかる
- (2) 避妊・中絶・出産に関する自己決定を実現するハードルが高い
納得できる自己決定ができない
- (3) 包括的な性教育の不足
- (4) 当事者の孤立・身近な誰かに頼りたくても頼ることができない
- (5) 居所（居場所）がなく、漂流している妊婦の存在

ハイリスクアプローチだけでなく、
妊娠しているすべての人が
自分に必要な情報や手段にアクセスできる、
ポピュレーションアプローチも必要

誰もが性（妊娠）に関する情報を得ることができる環境を整備する

誰もが困りごとの状況をジャッジされることなく安心して相談ができる

自分に必要な社会資源を選び取ることができる
孤立した妊婦をなくす

誰もが性（妊娠）に関する情報を得ることができる環境を整備する

→結果的に0歳0日児の虐待死を予防し、なおかつその他の妊娠葛藤にもアクセスできる

- そのために、妊娠に関するさまざまな悩みに寄り添う相談先や繋がる仕組みが必要

女性だけでなく全ての人に関わる概念、『性と生殖の健康と権利:SRHR』

の社会への周知促進と、SRHRに基づく情報提供と誰もが相談先を見つけられる社会へ

(1) 妊娠子育てについて自己決定する「お金」がない・全ての負担が当事者にのしかかる

要望 ①

避妊や中絶、性感染症の治療を含む、妊娠の確定診断や妊婦健康診査、分娩を無料に（まずは若年からでも良いので早急に）



SDGs目標：3. すべての人に健康と福祉を

3.8 **全ての人々に対する**財政リスクからの保護、質の高い基礎的な保健サービスへのアクセス及び安全で効果的かつ質が高く安価な必須医薬品とワクチンへのアクセスを含む、**ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ (UHC)** を達成する。

(2) 避妊・中絶・出産に関する自己決定を実現するハードルが高い
納得できる自己決定ができない

要望 ②

誰もが性（妊娠）に関する情報を得ることができる環境の整備を

妊娠に関する情報はネットで探す

→ネット上には様々な情報が混在しているため、信頼できる情報を

イギリスのNHSのサイトにはpregnancyのタブがあり、
誰もが自分に必要な情報を得ることができる仕組みを、
国が整備している。

妊娠のうけとめ方や状況はさまざまで、どんな状況にあったとしても、
全ての妊婦に対し、

「社会にはあなたを支える仕組みがあります。」
というメッセージになっている。

**女性だけでなく全ての人に関わる概念、
『性と生殖の健康と権利:SRHR』の社会への周知促進と、
SRHRに基づく情報提供により、妊婦を孤立させない**

(3) 包括的な性教育の不足

要望 ③

世界の性教育のスタンダードであるユネスコの「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」に沿った性教育の実施を

基本的人権と科学的な根拠による、ひとりひとりのWell beingを目指した包括的性教育を



Home / Publications / Overview / International technical guidance on sexuality education

International technical guidance on sexuality education

An evidence-informed approach

14 March 2018 | Publication



Overview

Comprehensive sexuality education (CSE) plays a central role in the preparation of young people for a safe, productive, fulfilling life in a world where HIV and AIDS, sexually transmitted infections (STIs), unintended pregnancies, gender-based violence (GBV) and gender inequality still pose serious risks to their well-being. However, despite clear and compelling evidence for the benefits of high-quality, curriculum-based CSE, few children and young people receive preparation for their lives that empowers them to take control and make informed decisions about their sexuality and relationships freely and responsibly.

Countries are increasingly acknowledging the importance of equipping young people with the knowledge and skills to make responsible choices in their lives, particularly in a context where they have greater exposure to sexually explicit material through the Internet and other media.

Other languages

WHO TEAM
Sexual and Reproductive Health and Research

EDITORS
UNESCO

NUMBER OF PAGES
166

REFERENCE NUMBERS
ISBN: 978-92-3-100259-5

COPYRIGHT
CC BY-NC-ND 3.0 IGO

[Français](#)

[Download \(7.3 MB\)](#)

<https://www.who.int/publications/m/item/9789231002595>



(4) 当事者の孤立・身近な誰かに頼りたくても頼ることができない

要望 ④ 誰もが相談先にアクセスできる環境を

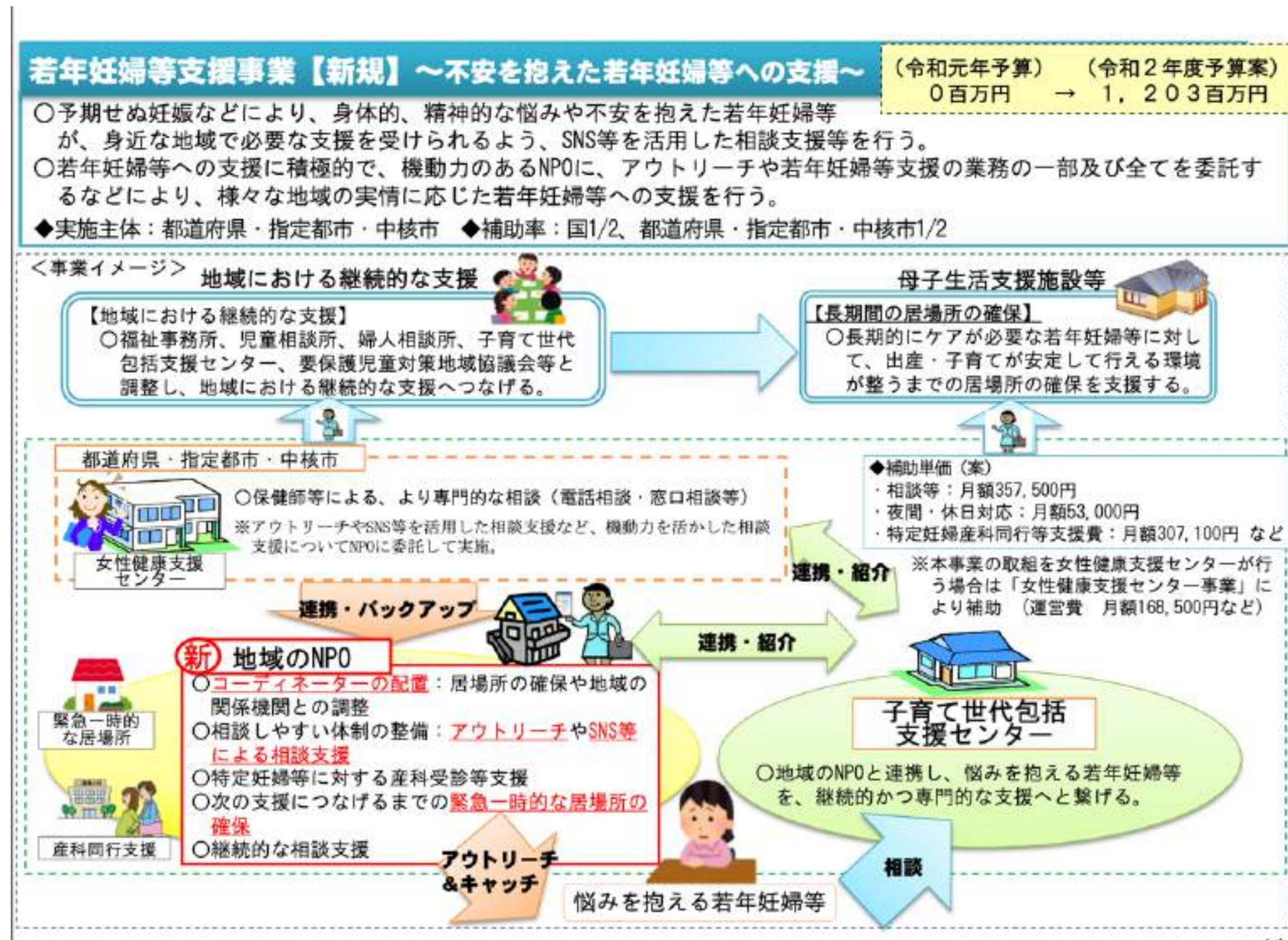
内閣府の孤独・孤立対策の相談先のページに、
孤立した妊婦に向けたメッセージを掲載し、
「にんしんSOS東京」や「全国妊娠SOSネットワーク」のHPを掲載してほしい
「誰にも知られたくない」と一人で妊娠を抱え孤立している妊婦が、
匿名で、秘密が守られ、役に立つ相談先を、
どこに住んでいたとしても見つけられる仕組みを



(5) 居所（居場所）がなく、漂流している妊婦の存在

要望 ⑤

妊婦等支援事業の居場所に関する予算の拡充をして欲しい



参考資料

○ 妊娠葛藤相談窓口、「にんしんSOS東京」では、社会や家族と繋がりを持つことができず孤立し、ネットカフェ、SNSで出会った男性宅等、危険な居場所を転々と漂流せざるを得ない状況にいる若年妊婦(10~20代)と出会ってきた。

彼女たちのSOSを受け止める受け皿が圧倒的に不足している現状の中、宿泊も可能な妊婦のための居場所を運営し、若年妊婦が、「にんしん」をきっかけに、孤立せず、自由に幸せに生きていくことができる地域社会の創造を目指す。

○ 妊娠何週数からでも、産前産後どちらでも、また、中絶出産どちらの場合であっても利用可能。



居所のない妊婦の存在

妊娠によって居場所を失う 居場所がないから妊娠をする



居場所事業



個室で一人の時間も確保

1F 個室 × 2
バスルーム





居場所事業



スタッフたち

2F リビング
ダイニング
キッチン

利用者さんと
一緒に作った
おもちゃ

ヨガやストレッチ
お散歩も





居場所事業



アレルギーだけでなく好き嫌いにも対応。利用者と相談をしながら。
好きなものをリクエストしたり、自分で作って食べることもできる。
落ち着いてお部屋で食べたい時もあるし、みんなで食べたいという時も。
その時の気持ちを大切に食べる場所も決められる。

stay利用
@ぴさら





居場所事業



行事やお祝いもみんなで。いつでも戻れる場所に。



day利用
@ぴさら





居場所事業



繋がりに続ける仕組みの一つ・パントリー情報をLINEで発信・本人が選びとる

食料・生活支援
物品送付





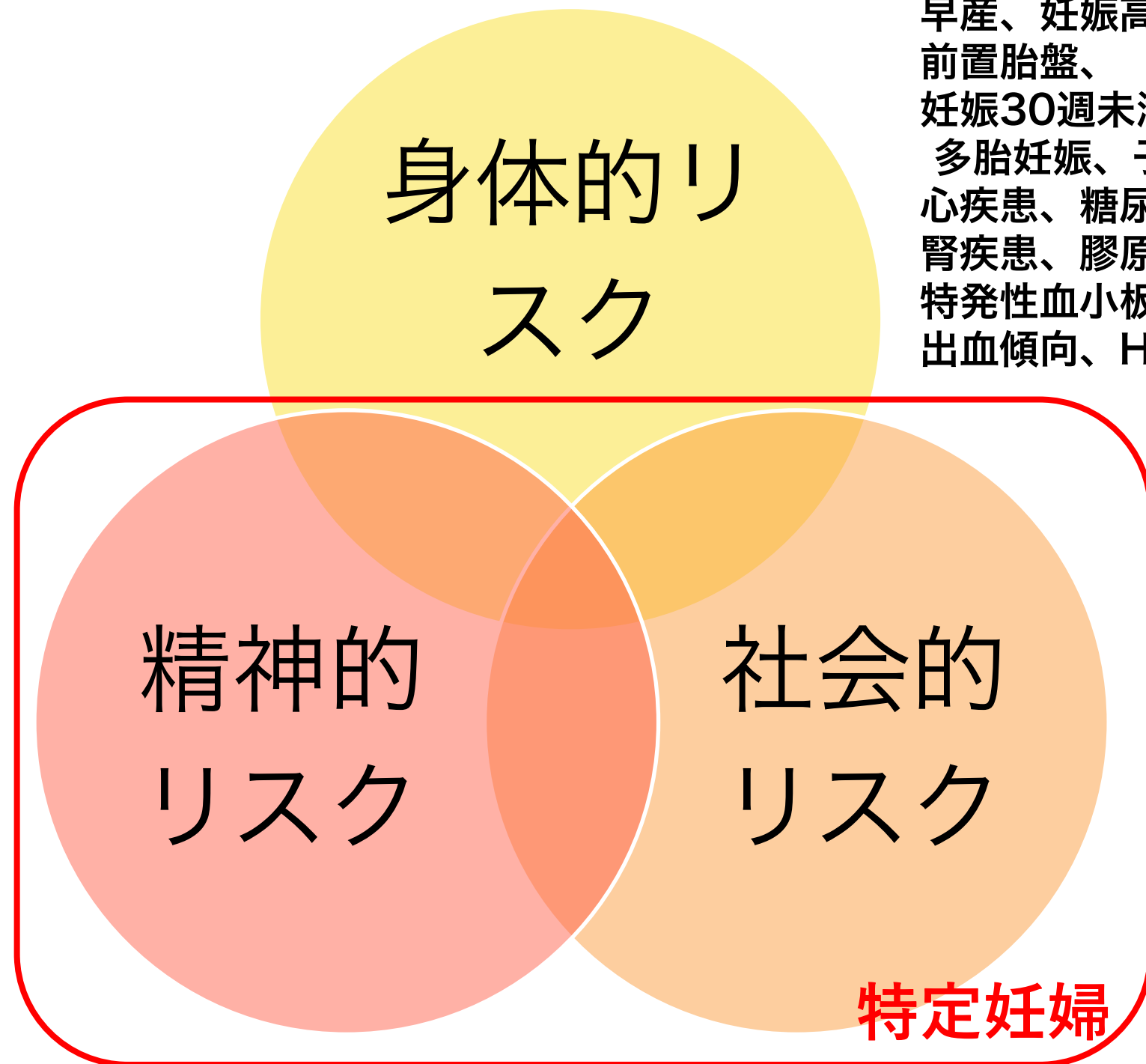
居場所事業



ピコの保健室
@ぴさら



妊産褥婦のリスク



早産、妊娠高血圧症候群重症、前置胎盤、妊娠30週未満の切迫早産、多胎妊娠、子宮内胎児発育遅延、心疾患、糖尿病、甲状腺疾患、腎疾患、膠原病、白血病、血友病、特発性血小板減少性紫斑病、出血傾向、HIV陽性、Rh不適合

若年、被虐待歴、原家族が機能不全、支援者の不在、不安定な雇用、借金、衣食住の劣悪な生活環境、妊娠葛藤（思いがけない妊娠）、母子健康手帳未発行、妊娠後期の妊娠届、妊婦健康診査未受診、上の子の養育困難、DV、精神疾患、育児休業中の生活保障不足など

「にんしん」をきっかけに、
誰もが孤立することなく、
自由に幸せに生きていける社会へ

